

令和三年十月十五日 希望の光勉強会^{みち}

神 示

時代の変化を受け止め 流れに乗って生きるべし
人生の姿を正しく知った人の心^{人間}が ここにある
努力と経験は

「道」を外さず 正しく歩む中で生きてくる
なれど 「人生の真理」を知らず

知識を絶大と頼る心に 悩みが生まれる

信者に申す

家族で「教え」を学び

「真理」で関わる家庭をつくる努力をする

自然と家族の心^{思い}は重なり 不安に迷う思いは消えてゆく

運命が重なり 補い合うほど

人の心^{人間 実体}は安定し 「道」欠く動きを取らない

悩みは 社会環境が生み出すのではない

今^{現実}を受け止めきれない人の心^{人間 実体}が

苦しみ 迷い 悩みとなる

「真理」に気付きを得て 悟りを深めるほどに

人の心^{人間 運命実体}は 明るく 強くなる

使者供丸斎の救世の歩みを 「人生」の手本とされよ

「道」を守り 通^{信念}す心の姿が見えて

社会の変化に「心」のまれない